

日本養殖新聞

THE NIHON YOSHKU SHINBUN

第1821号 株式会社日本養殖新聞
編集兼発行人 高 嶋 止 戈 男
本社 〒104-0054 東京都中央区勝どき2-8-12 東京ビコック中銀319号
TEL 03-3531-3662(代表) FAX 03-3531-0964
■購読料24,200円(税込み、前納払い制) ■昭和44年6月14日第三種郵便物認可
← 日本養殖新聞の各SNSが見られます → メール info@yoshoku.com

伝統と創造 魚食文化を世界へ

豊洲市場卸七社「年末商品合同展示会」



今月10日、東京・豊洲市場で開催された「卸七社 年末商品合同展示会」の様子。スーパーのバイヤー、メーカーの担当者など多くの関係者が集まった。

東京・江東区の豊洲市場で10日、卸七社が合同で開催する「豊洲市場卸七社 年末商品合同展示会」が開催された。大勢の来場者で賑わいを見せた。今年は「伝統と創造 豊洲市場から魚食文化を世界へ」をテーマに掲げ、各社とも会場内にかまぼこ、ちくわ、黒豆といったお催ししている。

かまぼこ、黒豆など
おせち料理商材が中心
蒲焼は静岡鰻販売、山田水産他



録蒲焼「静岡鰻」をPRする静岡鰻販売の望月録営業課長。下は出展した商品群。



かまぼこなど、年末年始を代表する縁起物製品がダイニングで展示された。

山田水産は鹿児島県産「山田うなぎ」も出展したほか、良食も提供した。

され、10日に開催されたが、例年のようにメーカーや商社の担当者、スーパーのバイヤー、報道関係者など多くの来場者が会場は熱気にあふれた。

今年の特イマは「伝統と創造 豊洲市場から魚食文化を世界へ」をテーマに掲げ、会場内に設けられた七社のブースにはかまぼこ、ちくわ、黒豆、伊達巻など、おせち料理の商材が中心に展示された。

「録蒲焼」を出展した蒲焼のたれ、山田水産は鹿児島県産「山田うなぎ」も出展したほか、良食も提供した。

開催にあたって、卸七社「総合食品」の長澤成博代表取締役社長は「メーカーの担当者や直接会えるのも貴重な機会であり、活発な商談で多くの取引が生まれることを期待している」と話している。

日に行われる予定が台風の影響で延期。おせち料理などの年末年始の需要をメインとし、引につながることを期待している。また、いもを消費地に届けるという豊洲市場のハブ機能にも改めて注目している。ただ、水産業界を取り巻く環境も非常に厳しい。この状況を乗りこえ、皆さんと協力して日本の水産業を元気にしていきたい」と話している。

の返礼品としても扱っていますが、予想していた以上に需要があります」と話している。

食べられること、品となつて人気商品。ネット通販やふるさと納税の返礼品としても扱っていますが、予想していた以上に需要があります」と話している。

刻み鰻の需要の多さに驚いた様子を見せていた。一方で、「鰻の場合は大抵、長焼やカット、刻みと規格があり、刻みになつてしまいがちなので、鰻の佃煮など何か新しい商品も考えていかなければいけない」と思っている。

「山田水産」の代表取締役社長は「山田うなぎ」も出展したほか、良食も提供した。

「録蒲焼」を出展した蒲焼のたれ、山田水産は鹿児島県産「山田うなぎ」も出展したほか、良食も提供した。